

着物リプロダクション

古い着物をアイデア創発によって魅力的にリサイクルする

kimono reproduction

Generating ideas for recycling old kimonos in an attractive way

坂倉雛乃, 外山浩志朗

指導教員 大野淑子, 大西典子, 富田知子

山野美容芸術短期大学 美容総合学科

キーワード：着物, エシカルファッション, リプロダクション, リサイクル, アイデア創発

1. 緒言

私達は大学の必修授業で着物の文化や着付けの技術を学んでいる。近年、着物を着る人が減少しているのは残念なことであるが、着物について学んでいる私達の使命として、着物文化を継承し広めていく必要があると考えていた。(着物を装うだけでなく着物を活用した新しい楽しみ方を考える必要性も感じていた。)

そのような中、ファッションの授業において、衣服が大量生産され、環境問題や人権問題に発展している中で、エシカル(倫理的、環境や社会に配慮する)ファッションが注目されていることを学び、学びの一環として古い着物をリサイクルして再生させることを目的とした着物リプロダクションに取り組むことになった。

私達は先ずデジタジオ株式会社の辻様より講義を受け、現在古い着物が家庭のタンスに約3000万点、金額にして約8兆円相当眠っていることを知った。そして、高価なシルク素材や有名な手法で作られた織物など文化的価値の高い着物の多くは、所有者の高齢化や死亡などで次世代に受け継がれたタイミングで取り扱いに困って廃棄され、あるいはその価値を理解されずに安価に販売されているといった現状があることを学んだ。

そして、そのような古い着物の現状を踏まえて着物を使った商品アイデアを創発し、企業の皆様に提案させて頂くことになった。アイデア創発の

参考として、着物サロンORZAの河野様からリサイクル着物のサンプルを、また株式会社渡喜商工の鈴木様より、バッグなどの革製品等の商品サンプルを提供して頂いた。実物が目の前にあるとアイデアが浮かびやすく、着物は少しカットして形にしてみたりしながら創造を膨らませることができた。

約90名の学生がアイデア創発を行った結果、150余りの商品アイデアが生まれた。特に私達のアイデアは企業の皆様から高く評価して頂いたので以下で紹介する。その他のアイデアの中にも、企業の方々によって商品化に向けて動きだしているものもあると伺った。私達はこのような取り組みの重要性を改めて感じ、さらに私達のアイデアによってより広く着物文化の魅力を伝え、商品化への可能性を広げたいと考えた。

2. 商品アイデア創発の方法

私達は最初に情報を調べて1人でアイデアを考えた。その後4~5名のグループでアイデアを持ち寄ってブレインストーミングし、最後にまた1人に戻り、同じテーマであってもアイデアを各自具体的に掘り下げて複数のアイデアスケッチ(絵や画像と簡単な説明を書いたA4用紙)を作成していった。その後全員のアイデアスケッチを机の上に並べてお互いに見てまわり、面白い、広がる可能性があると感じるものをチェックし、評価の高

いアイデアを選び出した。

選ばれたアイデアは企業の皆様にプレゼンテーションを通してアイデアレビュー（上位案を紹介し共有する）させて頂いた。

3. 企業の皆様から評価して頂いたアイデア 最優秀賞

観光バスのシート、ランドセルカバー
優秀賞

車いす、ペットの洋服

企画賞


カーテン、プリザーブドフラワー、ペットボトルカバー、バケットハット、卒業証書、のれん、こたつ布団、スカーフ、ヘッドホン、サッカーボール、ぬいぐるみの服、デニムコラボ服、エコバッグ、エプロン、メイクパレット、リップ、ネイルチップ、シューズ、現代着物、ドレス、傘、ネクタイ、ヘアアクセサリ

【最優秀賞のアイデアの詳細】

アイデアスケッチ①（坂倉雛乃）

商品タイトル	ランドセルカバー
絵・写真	 <p>子供の頃から着物の柄に触れる事で伝統を学ぶ良いきっかけになると考えました。</p> <p>また、通学路を列を作り歩いている小学生たちの背中に華やかな柄があったら、それを見る町の人たちも明るい気分になれると考えました。</p> <p>さらに、派手な柄や色を身につける事で事故を減らす事ができるのではないかと考えました。</p> <p>しかし着物は水分に弱いので、上からクリアカバーを重ねるなどの工夫は必要になると思います。</p>

アイデアスケッチ②（外山浩志朗）

商品タイトル	バスのシート
絵・写真	 <p>着物の生地を路線バスや観光バスのシートに使う。着物の色や柄が華やかな感じになる。</p> <p>乗客が着物を魅力を感じたりバスに乗るのが楽しくなる。外国人が観光で乗車する際にも、日本文化に触れ合う時間を作ることができる、またバスガイドのネタになる。</p>

4. 考察と提案

今回の取り組みを通して、大量に存在する着物をリサイクルして新しい商品を生み出すことは、着物（衣服）の廃棄を減らすことにつながり、エシカルファッションとしてSDGsにも貢献するものと思われる。また商品化が実現すれば着物の存在や着物文化の魅力を広めることもできる。

また、私達のアイデアを八王子地域に応用して考えると、古い着物とは限らないが、八王子市を走るバスのシートに八王子織物を使ってみることや、八王子市の小学生のランドセルに、八王子織物のカバーを着けてみることを提案したい。実現できれば八王子市民だけでなく観光客にとっても、八王子織物を知り、魅力を感じる機会になると考えられる。また他の地域との差別化にもつながる、華やかで楽しい取り組みとなり、八王子の活性化につながるものと考察する。

5. 謝辞

この取り組みは、山野美容芸術短期大学の「ファッショントレンド心理学」の授業内でのアクティブラーニングとして実施されたものである。

ご協力頂いた以下に示す企業の皆様には、企画のご提案、資料の提供、学生アイデアの確認、評価など様々ご協力を頂いた。

辻正雄様（デジタジオ株式会社）

河野貴子様（着物サロン ORZA）

鈴木啓嗣様（株式会社渡喜商工）

割田栄二様（株式会社読売情報開発）

塚田育男様（株式会社シナノ企画）

心より感謝申し上げます。

7. 参考資料

クラウドファンディング FUNDINNO 2022年「着物文化の価値を再発見」

株式会社矢野研究所 呉服市場に関する調査